

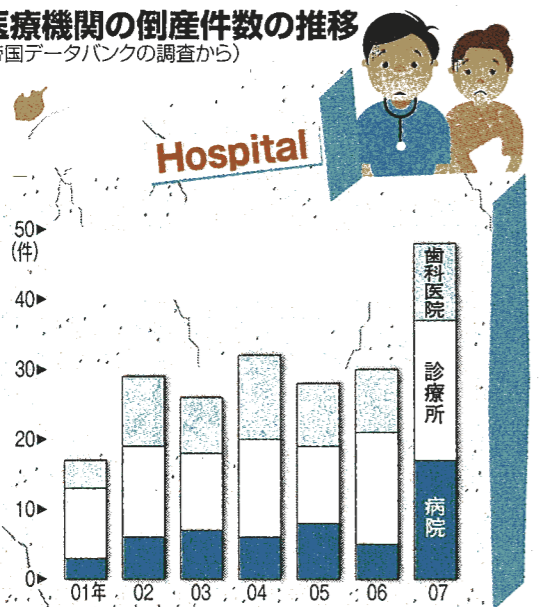
be

on Sunday

Wonder in life

医療機関の倒産件数の推移

(帝国データバンクの調査から)



グラフィック 戸田靖人 / The Asahi Shimbun

あっと! @ データ

つぶれた病院をテーマにしたお化け屋敷に行ったことがある。でも、実際につぶれる病院が増えてくると、別の意味で肝が冷やされる。信用調査機関の帝国データバンクの調査で、全国の医療機関の倒産件数(民事再生法や破産手続きの申請など法的整理件数)が、昨年は急増した。

調査対象は、病院、診療所、歯科医院で、特に病院は前年の3.4倍と増加ぶりが目立った。調査を担当した阿部成伸さんは、何らかの問題を以前から抱えていたところに①診療報酬の引き下げ②医師不足③患者の医療機関の選択意識の高まり——などが引き金になったとみている。バブル期

「市場主義」の

リムコーポレーションの書体の一部。どんな字が読みやすいのか、模索は続く——。書体見本を素材に構成



日曜 NANTO-KAGAKU ナントカ学

数ヶ角の携帯電話の画面でメールやニュースをざっと読める。そんな用途に合った新書体を考えてもらえないか——。

携帯電話に文字を表示するソフトを作るリムコーポレーション(浜松市)が、千葉大学工学部に依頼したのは06年春のことだ。

デザイナーでもある宮崎紀郎教授(当時)現ザランドフェロー)とデザイン心理学研究室の日比野治雄教授が引き受け、「読み間違わない字」の開発に知恵を絞った。

苦心したのは、濁点と半濁点。「パリ」か「バリ」かに迷った経験は誰でもあるはず。とあって、「リ」や「ル」を大きくすれば、字本体が小さくなる。宮崎さんは「リ」の片方の点だけ大きくしたり、「は」の横棒の端を縮めてスペースを確保したりしてみた。

試作品は、日比野さんが実証実験した。20人の被験者に2・5センチ離れた画面で映した字を見せ、大きさを覚えてどこまで読めるかなどを調べた。ひらがなは丸みを持たせて「ふとろ」を広く、漢字は「へん」より「くろ」を大きく見せるなどの工夫を加え、昨年未完成した。

リム社のソフトは現在携帯主要各社に採用され、シェアも割を占める。新書体の「ユニバーサルデザインフォント ユニタイプ」は

サッと判別進化する文字

新種類の携帯に登場し始めている。

携帯電話に限らない。松下電器産業も03年秋、真野一則・玉幹憲匠技師を中心に「フォント研究会」を社内立ち上げた。家電に使う文字を統一し、お年寄りにも読みやすくしようと、活字メーカーのイワタ(本社・東京)の書体をベースに「間違えにくい字」の開発に取り組んだ。

文字盤などに使う「2と5ヶ角」に狙いを定め、徹底的に研究した。「『定』が『足』に見える」といった過去の苦情や改善例をもとに「間違えにくい書体」を探るため、海外を含め対面調査をした。100人近くに色んな書体を見せて印象を聞き、難読症などの論文も参考にした。

「ソ」と「ン」の特徴を変えて判別しやすくすることなどを、イワタのデザイナーに注文して改良していった。こちらも製品に採用されている。

さらにイワタは研究を開展させ、新書体を1万5千文字まで増やし、新商品「UD(ユニバーサルデザイン)フォント」を06年末発売した。反響は上々、預金通帳や駅の表示板などにも採用され、昨年、この書体だけで、イワタの他の書体の合計売上額を上回った。

より読みやすく、より間違えにくい——。私たちの身の回りの文字も、静かに進化している。

文・東野真和
写真・鬼室黎

2面にもう一つの話